

演題名	乳房炎の依頼検査の現状と課題		
発表者 氏名	小林 憲一郎	所属	伊那家畜保健衛生所
<p>乳房炎の依頼検査は通常、検査結果をその都度回答してきたが、その結果を更に各農場における乳房炎対策に生かすことを目的として、過去5年間の乳房炎依頼検査3,563検体について①菌種別分離割合、また依頼検査検体数の多い10農場について②菌種別分離割合、③薬剤耐性率を検討。①についてはコアグラゼ陰性ブドウ球菌（CNS）、レンサ球菌（Strep）、大腸菌群（CO）、黄色ブドウ球菌（SA）、酵母様真菌の順に多かった。②については農場によりSAで3.3~35.3%、COで9.3~42.9%の差があった。③については農場によりアンピシリン耐性が <i>Escherichia coli</i> で0~64.7%、エリスロマイシン耐性がCNSで2.4~47.4%の差があった。菌種別分離割合は農場毎に異なることから各農場の菌種別分離割合と薬剤耐性率を把握することが乳房炎の予防と治療に重要と推察され、依頼検査回答時に過去の検査結果を集計したものを併せて提供することで乳房炎対策に活用していきたい。</p>			

